No	4290804

事務事業票

評価対象年度	平成29年度	（2017）

所管部長等名	教育部長　桑田　謙治
所管課・係名	博物館　学芸係
課長名	福原　透

1 （Plan）事務事業の計画

事務事業名	博物館施設整備事業			会計区分	01 一般会計					
				款項目コード（款-項-目）	9	—	7	—	5	
施策の体系（八代市総合計画における位置づけ）	基本目標（章）	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード（大－中－小）	2	—	21	—	23	
	施策の大綱（節）【政策】	2	生涯を通じた学びのまちづくり	総合戦略での位置づけ	基本目標	3	誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”			
	施策の展開（項）【施策】	1	生涯学習社会の構築		施策大項目	2	健やかな暮らしの実現			
	具体的な施策と内容	3	社会教育施設の整備・充実		施策小項目	2	学び・教育の充実			

事務事業の概要（全体事業の内容）	博物館は平成3年の開館以来27年を経過し、施設・設備に改修の必要な箇所が多く見られるようになってきた。本事業では、市の建設計画に基づき、中長期的な改修計画に沿って、大型の施設・設備の改修事業を行ない、それにより、安全・快適な社会教育施設を市民に提供すると同時に、施設の長寿命化を図る。
実施手法（該当欄を選択）	● 全部直営　○ 一部委託　○ 全部委託 ○ その他（　　）
補助金事業該当	○ 補助金（主な補助先：　　）※予算の全てが補助金支出である場合に記入。
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則

事業期間	開始年度	終了年度	法令による実施義務（該当欄を選択）	
	平成25年度	未定		○ 1 義務である ● 2 義務ではない

2 （Do）事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対　象（誰・何を）	博物館の施設・設備

事業内容（手段、方法等）	成果目標（どのような効果をもたらしたいのか）
○くん蒸庫設備改修 エキヒュームガスを利用するくん蒸庫の設備が劣化してきているため、作業の安全を図り、設備改修を行う。 （事業予算）作業一式　2,529千円 ○空調用クーリングタワー改修 開館以来使用している機器の劣化が進み、使用不能になる危険性が指摘されたため、設備の改修を行う。 （事業予算）作業一式　4,104千円	文化財の保存・公開に適し、利用者にとって常に安全・快適な施設であるよう維持管理する。

コスト推移		27年度決算	28年度決算	29年度決算見込	30年度予算	2019年度見込	2020年度見込	2021年度見込
事業費（直接経費）（単位：千円）		4,806	10,880	5,747	40,342	4,104	36,916	
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他特定財源（特別会計→繰入金）				40,000			
	一般財源（特別会計→事業収入）	4,806	10,880	5,747	342	4,104	36,916	

活動指標 事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	年間の改修件数	件	計画	－	1	1	1	2	2
			実績	0	1	1	1	2	2
②			計画	－					
			実績						
③			計画	－					
			実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①				計画	－					
				実績						
②				計画	－					
				実績						
③				計画	－					
				実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

成果指標としては、改修完了率などが考えられるが、実際には、想定外の緊急工事が発生してくるため、指標としての設定は困難である。

3 （Check） 事務事業の自己評価

着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	博物館は市民が誇る歴史・文化の殿堂であり、同時に、市民が自らの創作活動の成果を発表する大切な場でもある。安全で快適、美しい会場を提供し続けるために、市は責任を持って維持管理していく必要がある。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	● 有効である 概ね有効である 有効でない	施設・設備の劣化は急速に進んでいる。計画的な整備・改修を行うことにより、不慮の事故等を未然に防止することができ、施設の長寿命化にもつながる。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	本館の施設・設備の日常的な管理については、既に民間に業務委託を行っている。整備・改修については、その都度、教育委員会教育施設課の専門職員の指導を仰ぎながら、事業を遂行している。本事業は、本市の課題でもある公共施設の長寿命化に関わる重要なものであり、来たるべき大規模改修の際には、万全の体制で臨む必要がある。

4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 （該当欄を選択）	1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等） 4 市による実施（要改善）　5 市による実施（現行どおり）　● 6 市による実施（規模拡充）
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	（今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など） 県南を代表する文化の殿堂である博物館も開館後27年を経過した。大規模改修等に際しては万全な体制で臨み、不慮の事故の防止と、施設設備の長寿命化を図っていかなければならない。

外部評価の実施		無	実施年度	
改善進捗状況等	H29進捗状況		
	H29取組内容		

決算審査に伴う常任委員会における意見等	（委員からの意見等） 特になし

No	4290805

事務事業票

評価対象年度	平成29年度	（2017）

所管部長等名	教育部長　桑田　謙治
所管課・係名	博物館　学芸係
課長名	福原　透

1 （Plan）事務事業の計画

事務事業名	麦島勝撮影写真デジタルアーカイブ事業			会計区分	01 一般会計					
				款項目コード（款-項-目）	9	—	7	—	5	
施策の体系（八代市総合計画における位置づけ）	基本目標（章）	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード（大－中－小）	2	—	21	—	28	
	施策の大綱（節）【政策】	2	生涯を通じた学びのまちづくり	総合戦略での位置づけ	基本目標	3	誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”			
	施策の展開（項）【施策】	1	生涯学習社会の構築		施策大項目	2	健やかな暮らしの実現			
	具体的な施策と内容	2	生涯学習機会および学習情報の提供		施策小項目	2	学び・教育の充実			

事務事業の概要（全体事業の内容）	八代市在住の写真家麦島勝氏撮影写真は、昭和の八代及び熊本県下各地の歴史や生活文化を知る上でかけがえの無い貴重な財産である。麦島氏より寄贈を受けた写真約4,000点を恒久的に保存・活用するために、資料情報を調査・整理し、さらにデジタルデータ化して、3カ年計画でデータベースを構築、これを博物館ホームページを通じて公開することにより、教育・まちづくり・観光等の素材として広く活用してもらう。
実施手法（該当欄を選択）	● 全部直営　○ 一部委託　○ 全部委託 ○ その他（　　）
補助金事業該当	○ 補助金（主な補助先：　　）※予算の全てが補助金支出である場合に記入。
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則

事業期間	開始年度	終了年度	法令による実施義務（該当欄を選択）	
	平成27年度	平成29年度		○ 1 義務である ● 2 義務ではない

2 （Do）事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対　象（誰・何を）	麦島勝撮影写真約900点

事業内容（手段、方法等）	成果目標（どのような効果をもたらしたいのか）
(1)前年度までに作業が終了していない写真約900点について調査・整理作業（1点ごとにナンバリング、封筒に入れる保存措置、調書作成）を行う。 (2)　平成30年1月～3月にかけて、臨時職員により整理したデータ（1点ごとの画像・文字情報）のデータベース入力を行い、事業を完了させる。平成30年度当初より、博物館ホームページ上で公開する。	写真を調査・整理し、デジタルデータベースとして博物館ホームページを通じて市内外に公開することにより、教育・観光・まちづくり等のために利用可能な魅力あふれる素材として、広く利活用してもらうことができるようになる。

コスト推移		27年度決算	28年度決算	29年度決算見込	30年度予算	2019年度見込	2020年度見込	2021年度見込
事業費（直接経費）（単位：千円）		1,644	602	513				
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他特定財源（特別会計→繰入金）	1,644	602	513				
	一般財源（特別会計→事業収入）							

活動指標 事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	写真資料の整理・データ公開点数	点	計画	－			1,300	1,300	900
			実績				1,800	1,300	900
②			計画	－					
			実績						
③			計画	－					
			実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	博物館ホームページ内「麦島勝撮影写真」検索ページのアクセスカウント数	アクセスカウント数は、公開したデータの閲覧利用数を示し、本事業の成果を図る数値としてふさわしい	カウント	計画	－				1,000	2,000
				実績					2,800	2,085
②				計画	－					
				実績						
③				計画	－					
				実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

3 （Check） 事務事業の自己評価

着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	本事業により、麦島勝氏寄贈の写真は永久保存が図られるところとなり、博物館コレクションの充実と同時に、八代市民共有の財産として、生涯学習、まちづくり等に幅広く活用することが可能となる。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	● 有効である 概ね有効である 有効でない	写真・データの入力と公開は、計画通り終了、デジタルアーカイブのカウント数も目標を超えて増加している。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	本事業は、専門知識と実績を持った博物館職員により計画通り実施され、平成29年度末をもって予定通り完了され、あわせて、当初の事業目標も達成された。

4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善			
今後の方向性（該当欄を選択）	● 1 不要（廃止）	2 民間実施	3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等）
	4 市による実施（要改善）	5 市による実施（現行どおり）	6 市による実施（規模拡充）
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	（今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など） 平成29年度で事業完了。 今後は、事業成果の有効活用に努めていく。		

外部評価の実施		有 ： 他の制度による外部評価	実施年度	平成27年度
改善進捗状況等	H29進捗状況	3. 現状推進		
	H29取組内容	計画通り事業を推進し、事業を完了した。		

決算審査に伴う常任委員会における意見等	（委員からの意見等） 特になし

No	4290807

事務事業票

評価対象年度	平成29年度	（2017）

所管部長等名	教育部長　桑田　謙治
所管課・係名	博物館　学芸係
課長名	福原　透

1 （Plan）事務事業の計画

事務事業名	博物館特別展覧会事業（春季）			会計区分	01 一般会計					
				款項目コード（款-項-目）	9	—	7	—	5	
施策の体系（八代市総合計画における位置づけ）	基本目標（章）	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード（大－中－小）	2	—	41	—	16	
	施策の大綱（節）【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での位置づけ	基本目標	3	誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”			
	施策の展開（項）【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目	2	健やかな暮らしの実現			
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目	2	学び・教育の充実			

事務事業の概要（全体事業の内容）	日本各地の美術館や博物館が所蔵する貴重な歴史資料や、絵画、陶磁器といったすぐれた芸術作品などのコレクションを一括して借用、一堂に公開することにより、市民が八代に居ながらにして「本物」にふれ、楽しむ機会を提供する。これにより、市民の、新たな文化創造への意欲を高揚させ、八代の文化水準の向上を図る。
実施手法（該当欄を選択）	● 全部直営　○ 一部委託　○ 全部委託 ○ その他（　　）
補助金事業該当	○ 補助金（主な補助先：　　）※予算の全てが補助金支出である場合に記入。
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則

事業期間	開始年度	終了年度	法令による実施義務（該当欄を選択）	
	合併前	未定		○ 1 義務である ● 2 義務ではない

2 （Do）事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対　象（誰・何を）	市民（幼児から高齢者まで）及び市外からの来館者

事業内容（手段、方法等）	成果目標（どのような効果をもたらしたいのか）
「円山応挙～京都相国寺と金閣・銀閣の名宝展ふたたび」 会　期　平成29年4月21日（金）～6月4日（日）開館日数39日間 会　場　特別展示室・第二常設展示室 主　催　八代市立博物館未来の森ミュージアム・八代市 特別協力　相国寺承天閣美術館 京都・相国寺承天閣美術館の協力により、全国一の水準を誇る円山応挙コレクションを、九州で初めて公開する。 ○特別講演会 「円山応挙の世界～展覧会鑑賞のツボ」4/23（日）講師 鳥津亮二（本館学芸係長） ＊　本事業は平成28年4月14日以降に発生した熊本地震により、中止に至った企画であり、市内外からの要望に応えて開催するもの。	日本の文化史上、もっとも著名な画家の一人である円山応挙（1733～1795）の傑作を心ゆくまで楽しむ機会を提供する。最高の美術作品にふれた喜びと感動を、これからの文化創造へ向けた大きな糧としてもらう。平成29年度の特別展覧会事業は、熊本地震からの「文化による心の復興」を目指して開催するものである。

コスト推移		27年度決算	28年度決算	29年度決算見込	30年度予算	2019年度見込	2020年度見込	2021年度見込
事業費（直接経費）（単位：千円）		2,952	4,632	6,116	1,827	3,500	3,500	3,500
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他特定財源（特別会計→繰入金）	664		6,116	1,200	800	800	800
	一般財源（特別会計→事業収入）	2,288	4,632		627	2,700	2,700	2,700

活動指標 事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①			計画	－					
			実績						
②			計画	－					
			実績						
③			計画	－					
			実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、1作品についての展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	計画	－	3,000	6,000	3,500	6,500	6,500
				実績	4,741	1,874	9,319	3,079	0	14,355
②	入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数）	アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。	%	計画	－	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
				実績	89.9	78.3	93.4	94.9	0	94.9
③				計画	－					
				実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

3 （Check） 事務事業の自己評価

着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	全国水準の貴重な文化財やすぐれた芸術作品に市民が接する貴重な機会となっており、新たな市民文化の創造に寄与する事業として、さらにレベルの高い展覧会を求める声も少なくない。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	● 有効である 概ね有効である 有効でない	市民文化の創造に多大な刺激を与えると同時に、児童生徒や教職員へ鑑賞学習の機会を提供、教育面でも重要な役割を果たしている。市外からの来館者も多い。平成29年度は、特に熊本地震からの「文化による心の復興」に大きく寄与した。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	展覧会の成功は、博物館専門職員にかかるところが大きい。任期に限りのある指定管理者のもとでは、専門職員の人材育成が困難である。導入した場合、展覧会の水準を維持することは困難になり、市民サービスの低下につながると考えられる。展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定しており、受益者負担の適正化は図られている。

4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 （該当欄を選択）	1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等） 4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充）
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	（今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など） 本展覧会は、博物館建設時の目的のひとつであった「市民が、八代にいながらにして、国内第一級の歴史資料や芸術作品にふれる」場を提供するための大切な事業である。新たな市民文化創造のためにも、今後とも、市の実施により継続していく必要がある。

外部評価の実施		有 ： 他の制度による外部評価	実施年度	平成28年度
改善進捗状況等	H29進捗状況	3.　現状推進		
	H29取組内容	全国一の水準を誇る、京都・相国寺承天閣美術館所蔵の円山応挙コレクションを、九州で初めて一括公開、至高の芸術作品を心ゆくまで楽しむ機会を市民に提供した。		

決算審査に伴う常任委員会における意見等	（委員からの意見等） こういう展覧会を、今後ともお願いしたい。 ぜひ、素晴らしい展覧会の開催に向けて、今後とも頑張ってほしい。

No	4290809

事務事業票

評価対象年度	平成29年度	（2017）

所管部長等名	教育部長　桑田　謙治
所管課・係名	博物館　学芸係
課長名	福原　透

1 （Plan）事務事業の計画

事務事業名	博物館特別展覧会事業（夏季）			会計区分	01 一般会計					
				款項目コード（款-項-目）	9	—	7	—	5	
施策の体系（八代市総合計画における位置づけ）	基本目標（章）	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード（大－中－小）	2	—	41	—	18	
	施策の大綱（節）【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での位置づけ	基本目標	3	誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”			
	施策の展開（項）【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目	2	健やかな暮らしの実現			
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目	2	学び・教育の充実			

事務事業の概要（全体事業の内容）	歴史と文化情報を発信する博物館は、幅広い年齢層に親しまれることが求められる。それぞれのニーズに対応するためには、多彩な展示活動を展開し、これに応えていく必要がある。八代地域の歴史・文化に対する再認識を目指し、特に夏期休業中の児童生徒への教育的配慮に重点を置いた企画・内容の展覧会を中心に開催する。
実施手法（該当欄を選択）	● 全部直営　○ 一部委託　○ 全部委託 ○ その他（　　）
補助金事業該当	○ 補助金（主な補助先：　　）※予算の全てが補助金支出である場合に記入。
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則

事業期間	開始年度	終了年度	法令による実施義務（該当欄を選択）	
	合併前	未定		○ 1 義務である ● 2 義務ではない

2 （Do）事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対　象（誰・何を）	市民（特に夏季休業中の児童生徒及とその保護者）及び市内外からの来館者

事業内容（手段、方法等）	成果目標（どのような効果をもたらしたいのか）
「探してみよう！やつしろの宝もの～指定文化財大集合」 会　期　平成29年7月14日（金）～8月27日（日）開館日数39日間 会　場　特別展示室・第二常設展示室 主　催　八代市立博物館未来の森ミュージアム・八代市 協　賛　八代市立博物館友の会 日頃目にする機会の少ない、市内にある国・県・市指定の有形文化財を一堂に紹介する。会期中に特別講演会や実技講座を開催。 ○特別講演会 「指定文化財大集合」7/22（土）講師 山﨑　摂（本館上席学芸員） ○子ども講座 「博物館で自由研究」7/29(土) 参加者 子どもとその保護者　講師 山﨑　摂（本館上席学芸員） ほか	平成28年の熊本地震は、市民が地域の歴史や文化財に関心を向ける契機ともなった。本展覧会では、だれもが知っているようで、じつはよく知らない身近な文化財について、貴重な実物資料と、わかりやい解説により、正確に理解してもらう。

コスト推移		27年度決算	28年度決算	29年度決算見込	30年度予算	2019年度見込	2020年度見込	2021年度見込
事業費（直接経費）（単位：千円）		810	1,060	1,057	1,651	1,200	1,200	1,200
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他特定財源（特別会計→繰入金）	365	679	738	640	480	480	480
	一般財源（特別会計→事業収入）	445	381	319	1,011	720	720	720

活動指標 事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①			計画	－					
			実績						
②			計画	－					
			実績						
③			計画	－					
			実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、作品の展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	計画	－	2,500	2,000	2,500	2,500	2,500
				実績	2,248	2,684	2,127	2,070	3,623	2,025
②	入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数）	アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。	%	計画	－	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0
				実績		73.4	91.5	93.3	87.0	87.7
③				計画	－					
				実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

3 （Check） 事務事業の自己評価

着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代の歴史・文化には、だれもが知っているようで知らないことが多い。それらについて、新たな知識を得ることのできる機会は、郷土の真の姿を知るために、ますます重要になってきている。実物資料を通していきいきと学び、感じることができる場所は、博物館以外にない。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	● 有効である 概ね有効である 有効でない	児童生徒の夏期休業中の自由研究、市民の生涯学習の場として利用されるなど、十分に有効活用されている。平成29年度は、市民が、郷土の歴史と今日まで守り伝えられた文化財を見つめ直す、格好の機会になった。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	展覧会の成功は、博物館専門職員にかかるところが大きい。任期に限りのある指定管理者のもとでは、専門職員の人材育成が困難である。導入した場合、展覧会の水準を維持することは困難になり、市民サービスの低下につながると考えられる。展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定しており、受益者負担の適正化は図られている。

4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 （該当欄を選択）	1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等） 4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充）
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	（今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など） 本事業は、次世代育成と市民の生涯学習のために重要な役割を果たしているので、今後とも継続して、市による実施が必要である。学校現場との連携を図りつつ、楽しく学び、ためになる企画を続けていく。

外部評価の実施		無	実施年度
改善進捗状況等	H29進捗状況		
	H29取組内容		

決算審査に伴う常任委員会における意見等	（委員からの意見等） 特になし

No	4290806

事務事業票

評価対象年度	平成29年度	（2017）

所管部長等名	教育部長　桑田　謙治
所管課・係名	博物館　学芸係
課長名	福原　透

1 （Plan）事務事業の計画

事務事業名	博物館特別展覧会事業（秋季）			会計区分	01 一般会計					
				款項目コード（款-項-目）	9	—	7	—	5	
施策の体系（八代市総合計画における位置づけ）	基本目標（章）	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード（大－中－小）	2	—	41	—	15	
	施策の大綱（節）【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での位置づけ	基本目標	3	誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”			
	施策の展開（項）【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目	2	健やかな暮らしの実現			
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目	2	学び・教育の充実			

事務事業の概要（全体事業の内容）	八代の歴史・文化に関する館独自の調査研究に基づき、八代の歴史・文化像を解明する。現存する資料の徹底的な調査を行い、各地より借用した関連資料と比較対照させることにより、それらを日本史全体の流れの中に位置づけて、市内外に広く紹介する。また、独自に編集した展覧会図録を刊行、会期中には学芸員・外部講師による特別講演会等を開催する。
実施手法（該当欄を選択）	● 全部直営　○ 一部委託　○ 全部委託 ○ その他（　　）
補助金事業該当	○ 補助金（主な補助先：　　）※予算の全てが補助金支出である場合に記入。
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則

事業期間	開始年度	終了年度	法令による実施義務（該当欄を選択）	
	合併前	未定		○ 1 義務である ● 2 義務ではない

2 （Do）事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対　象（誰・何を）	市民（幼児から高齢者まで）及び市内外からの来館者

事業内容（手段、方法等）	成果目標（どのような効果をもたらしたいのか）
八代の歴史と文化27「大笠鉾展」 会　期　平成29年10月20日（金）～11月26日（日）　開館日数33日　　会　場　特別展示室・第二常設展示室 主　催　　八代市立博物館未来の森ミュージアム・八代市・熊本日日新 聞社 平成28年秋、ユネスコ無形文化遺産に登録された八代妙見祭笠鉾について、そのルーツを探るとともに、九州各地における笠鉾の展開について考える。 ○特別講演会 (1)「笠鉾から日本の『祭り』が見えてくる！？」10/28(土)講師 早瀬輝美（本館学芸員） (2)「笠鉾から山車へ」11/18(土)講師 西岡陽子（大阪芸術大学教授）	○展覧会を通して、八代妙見祭の魅力を、市内外に発信する。 ○ユネスコ無形文化遺産登録から一周年を契機に、妙見祭笠鉾のルーツを、広く西日本各地の祭礼行事に探り、その知られざる歴史と価値を知る。

コスト推移		27年度決算	28年度決算	29年度決算見込	30年度予算	2019年度見込	2020年度見込	2021年度見込
事業費（直接経費）（単位：千円）		7,660	3,724	7,059	7,699	7,500	7,500	7,500
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他特定財源（特別会計→繰入金）	1,481	1,790	7,059	1,440	2,500	2,500	2,500
	一般財源（特別会計→事業収入）	6,179	1,934		6,259	5,000	5,000	5,000

活動指標 事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①			計画	－					
			実績						
②			計画	－					
			実績						
③			計画	－					
			実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、1作品についての展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	計画	－	4,500	3,000	3,500	4,500	4,500
				実績	3,511	4,459	4,540	3,390	4,328	2,858
②	入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数	アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。	%	計画	－	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
				実績	94.6	92.5	92.5	93.0	98.5	93.7
③				計画	－					
				実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

3 （Check） 事務事業の自己評価

着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	八代の歴史・文化の掘り起こしを目的とする本事業は、本市の掲げる「郷土の文化・伝統に親しむまちづくり」の根幹につながる事業である。近年、市民のみならず、市外からの評価も高い。国・県・民間に、特に八代地域を対象として扱った類似する事業はない。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	● 有効である 概ね有効である 有効でない	八代市の主要な文化事業のひとつとして、年々大きな成果を挙げている。また、刊行した展覧会図録は、学校教育や生涯学習の素材等として、幅広く活用されている。予算拡充が可能であれば、さらに充実した規模・内容の企画の提供も可能である。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	展覧会の成功は、博物館専門職員にかかるところが大きい。任期に限りのある指定管理者のもとでは、人材育成が困難である。導入した場合、展覧会の水準を維持することは困難になり、市民サービスの低下につながると考えられる。展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定しており、受益者負担の適正化は図られている。

4 （Action）事務事業の方向性と改革改善

今後の方向性 （該当欄を選択）	1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等） 4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充）
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	（今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など） 本展覧会は、八代の歴史・文化に対する市民の誇りを醸成するためにも大切な事業である。本市の掲げる「郷土の文化・伝統に親しむまちづくり」につながる事業であり、今後とも、市の実施により継続していく必要がある。

外部評価の実施		有 ： 他の制度による外部評価	実施年度	平成28年度
改善進捗状況等	H29進捗状況	3. 現状推進		
	H29取組内容	わかりやすい解説パネルを作成、あわせて会場内にクイズ形式の学習シートを設置することにより、来館者が楽しみながら学べる工夫を行い、子どもから大人まで、幅広い年代の理解の促進を図った。		

決算審査に伴う常任委員会における意見等	（委員からの意見等） 特になし

No	4290808

事務事業票

所管部長等名	教育部長　桑田　謙治
所管課・係名	博物館　学芸係
課長名	福原　透

評価対象年度	平成29年度	（2017）

1 （Plan）事務事業の計画

事務事業名	博物館特別展覧会事業（冬季）			会計区分	01 一般会計				
				款項目コード（款-項-目）	9	—	7	—	5
施策の体系（八代市総合計画における位置づけ）	基本目標（章）	2	郷土を拓く人を育むまち	事業コード（大－中－小）	2	—	41	—	17
	施策の大綱（節）【政策】	4	文化のかおり高いまちづくり	総合戦略での位置づけ	基本目標	3	誰もが希望をもって暮らせる“やつしろ”		
	施策の展開（項）【施策】	1	伝統の継承・活用と八代の文化の創造		施策大項目	2	健やかな暮らしの実現		
	具体的な施策と内容	2	芸術・文化活動の推進		施策小項目	2	学び・教育の充実		

事務事業の概要（全体事業の内容）	八代の歴史・文化・工芸の多様な事象を、さまざまな作品や資料によって紹介し、城下町八代の魅力を内外に発信する。
実施手法（該当欄を選択）	● 全部直営　○ 一部委託　○ 全部委託 ○ その他（　　）
補助金事業該当	○ 補助金（主な補助先：　　）※予算の全てが補助金支出である場合に記入。
根拠法令、要綱等	社会教育法、博物館法、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例、八代市立博物館未来の森ミュージアム条例施行規則

事業期間	開始年度	終了年度	法令による実施義務（該当欄を選択）	
	合併前	未定		○ 1 義務である ● 2 義務ではない

2 （Do）事務事業の実施

評価対象年度の事業内容等

対　象（誰・何を）	市民（幼児から高齢者まで）及び市外からの来館者

事業内容（手段、方法等）	成果目標（どのような効果をもたらしたいのか）
「福よ来い～吉祥文様の世界」 会　期　平成30年2月9日（金）～3月18日（日）33日間 主　催　八代市立博物館未来の森ミュージアム・八代市 協　賛　八代市立博物館友の会 熊本地震からの「文化による心の復興」をテーマとした、平成29年度博物館事業の締めくくりとして、福を招く吉祥文様を施した絵画、陶磁器、衣装を一堂に紹介した。 ○特別講演会 「なぜめでたい？吉祥文様の意味を読み解く」2/18(日)　講師 宮原江梨（本館学芸員） ○体験講座 「めでた尽くしガーランドを作ろう！」3/4(日)　講師 宮原江梨（本館学芸員）	○文様に込められた人々の願いを、作品を通して紐解くことにより、単なる美術品鑑賞の場に留まらず、幸福を求める明日への活力としていただく。

コスト推移		27年度決算	28年度決算	29年度決算見込	30年度予算	2019年度見込	2020年度見込	2021年度見込
事業費（直接経費）（単位：千円）		405		1,121		885	885	885
財源内訳	国県支出金							
	地方債							
	その他特定財源（特別会計→繰入金）	405		446		480	480	480
	一般財源（特別会計→事業収入）			675		405	405	405

活動指標 事業の活動量・実績の数値化	指標名	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①			計画	－					
			実績						
②			計画	－					
			実績						
③			計画	－					
			実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

展示日数や展示作品の点数が指標としてあげられそうであるが、展覧会では文化財保護の見地から、作品の展示日数に限度があり、際限なく延長することはできない。また、展示作品の総点数は展示ジャンルにより大きく変動するため一様には比較できず、活動指標として設定、数値化することは困難である。

成果指標 もたらそうとする効果・成果の数値化	指標名	指標設定の考え方	単位		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
①	展覧会総入館者数	入館者の総数が、成果目標の達成度を測る、ひとつの目安となると考えられるため、指標として設定。	人	計画	－	2,000	2,000	25,00		2,000
				実績	2,980	2,324	2,040	2,024		2,212
②	入館者の理解度（会場内設置のアンケートに、「よかった」と回答した人数／全回答者数）	アンケートに、「よかった」と回答した人は、展覧会の内容について、ほぼ理解できたと考えられるところから、理解度を示す指標として設定。	%	計画	－	85.0	85.0	85.0		85.0
				実績		85.9	90.0	85.7		92.7
③				計画	－					
				実績						

〈記述欄〉※数値化できない場合

３ （Check） 事務事業の自己評価

着眼点	チェック	判断理由
◆事業実施の妥当性を備えているか ・事業の目的が上位政策・施策に結びつくか ・市民ニーズや社会状況の変化により、事業の役割が薄れていないか ・市が事業主体であることが妥当か（国・県・民間と競合していないか）	● 妥当である 概ね妥当である 妥当でない	伝統文化の市内外への発信と、催事の少ない冬の観光に文化的な彩りを添えるために重要な役割を果たしている。事業の開催には、きわめて専門的な知識・経験と、良好な展示環境を必要とするため、引き続き市が事業主体となる必要がある。
◆活動内容は有効なものとなっているか ・成果目標の達成状況は順調に推移しているか ・成果を向上させるため、事業内容を見直す余地がないか（成果をこれ以上伸ばすことはできないか）	● 有効である 概ね有効である 有効でない	実物資料を通して、来館者はさまざまな歴史資料や芸術作品の魅力について、自分の目で見、活き活きと感じることが可能であり、成果目標の達成には、きわめて有効な手段である。
◆実施方法は現行どおりでよいか ・民間委託、指定管理者制度の導入などにより、成果を下げずにコストを削減することは可能か ・目的や形態が類似、関連する事業との統合・連携によりコストの削減は可能か ・現状の成果を下げずに非常勤職員等による対応その他の方法により、人件費を削減することは可能か ・事務事業の目的や成果から考えて、受益者負担を見直す必要があるか（引上げ・引下げ・新たな負担・廃止）	● 現行どおりでよい 見直しが必要	展覧会の成功は、博物館専門職員にかかるところが大きい。任期に限りのある指定管理者のもとでは、人材育成が困難である。導入した場合、展覧会の水準を維持することは困難になり、市民サービスの低下につながると考えられる。展覧会の経費総額に応じて、その都度、入館料を設定しており、受益者負担の適正化は図られている。

4 （Action） 事務事業の方向性と改革改善	
今後の方向性 （該当欄を選択）	1 不要（廃止）　2 民間実施　3 市による実施（民間委託の拡大・市民等との協働等） 4 市による実施（要改善）　● 5 市による実施（現行どおり）　6 市による実施（規模拡充）
今後の方向性の理由、改革改善の取組等	（今後の方向性の理由、改革改善の取組ともたらそうとする効果など） 今後とも、歴史・文化を学び、同時に冬の八代に彩りを添えるかけがえのない事業として、さまざまな趣向をこらした企画を開催していく。

外部評価の実施		無	実施年度	
改善進捗状況等	H29進捗状況		
	H29取組内容		

決算審査に伴う常任委員会における意見等	（委員からの意見等） 特になし